

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコト刈谷新栄町	階数	地上13F
建設地	愛知県刈谷市新栄町六丁目607、608	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	113 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年9月6日
敷地面積	551 m ²	作成者	林 信貞
建築面積	223 m ²	確認日	2018年9月6日
延床面積	2,179 m ²	確認者	岡田 一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

環境品質 G (83) vs 環境負荷 L (27)

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算: ①参照値 100%, ②建築物の取組み 67%, ③上記+②以外の 67%, ④上記+ 67%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 1

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.5)

音環境	3.0
温熱環境	3.6
光・視環境	3.4
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.4)

機能性	3.8
耐用性	3.0
対応性	3.0

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.6)

生物環境	2.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.5

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 4.0)

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 2.9)

水資源	3.4
非再生材料の	2.7
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.4)

地球温暖化	4.3
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">61.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>県産石材</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質															3.5
Q1 室内環境															3.5
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル															3.0
1.2 遮音															3.0
1 開口部遮音性能															3.0
2 界壁遮音性能															3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															4.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															3.0
1.3 吸音															-
2 温熱環境															3.6
2.1 室温制御															1.0
1 室温															1.0
2 外皮性能															-
3 ゾーン別制御性															1.0
2.2 湿度制御															-
2.3 空調方式															-
3 光・視環境															3.4
3.1 昼光利用															2.7
1 昼光率															3.0
2 方位別開口															-
3 昼光利用設備															1.0
3.2 グレア対策															2.0
1 昼光制御															2.0
3.3 照度															3.0
3.4 照明制御															3.0
4 空気質環境															3.6
4.1 発生源対策															3.6
1 化学汚染物質															4.0
4.2 換気															4.0
1 換気量															3.0
2 自然換気性能															0.50
3 取り入れ外気への配慮															3.0
4.3 運用管理															-
1 CO ₂ の監視															-
2 喫煙の制御															-
Q2 サービス性能															3.4
1 機能性															3.8
1.1 機能性・使いやすさ															3.0
1 広さ・収納性															3.0
2 高度情報通信設備対応															-
3 バリアフリー計画															3.0
1.2 心理性・快適性															3.0
1 広さ感・景観 (天井高)															-
2 リフレッシュスペース															3.0
3 内装計画															3.0
1.3 維持管理															3.0
1 維持管理に配慮した設計															3.0
2 維持管理用機能の確保															3.0
2 耐用性・信頼性															3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振															3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															3.0
2 免震・制震・制振性能															3.0
2.2 部品・部材の耐用年数															3.5
1 躯体材料の耐用年数															5.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															2.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															4.0
6 主要設備機器の更新必要間隔															3.0
2.4 信頼性															2.6
1 空調・換気設備															3.0
2 給排水・衛生設備															2.0
3 電気設備															3.0
4 機械・配管支持方法															3.0
5 通信・情報設備															2.0

3 対応性・更新性					3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.2	3.2	-	0.50
1 階高のゆとり			階高2.96m		-	-		4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-		2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				3.6
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	県産石材の使用		5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30				3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上					4.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性										3.5
LR1 エネルギー						0.40				4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			等級4		4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			省エネ等級4		5.0	0.33				5.0
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価										-
4.1 モニタリング										-
4.2 運用管理体制										-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
LR2 資源・マテリアル						0.30				2.9
1 水資源保護					3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水型便器の採用		4.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無										-
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-		1.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	仕上げ材の分別可能		4.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68				-
1 消火剤					-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	1.00				-
3 冷媒					-	-				-
LR3 敷地外環境						0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値:67%		4.3	0.33				4.3
2 地域環境への配慮					3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車台数の確保		4.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	1.00				-
2 振動		独自			-	-				-
3 悪臭					-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				-
1 風害の抑制					3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-	-				-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					3.7	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告物無し		4.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

重点項目スコアシート
 (仮称)リコッタ刈谷新栄町

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:61.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				3.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	県産石材
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画地は、大通りから少し入った商業地域にあり、南側に道路を挟んで鉄道高架が通っている。西側にマンションが隣接するため、プライバシーの確保やマンションによる風害や日影に十分に配慮しながら、配置計画及び外観デザインを行いました。駐車場は狭い敷地を有効活用するため機械式とし、大通り側に配置しました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT1を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物と道路境界との間に緑地や中低木を多く設け、エントランス廻りにはシンボルとなる高木を配し、生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位分の照明を一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器を採用し水資源保護に努め、フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。